

## 第 23 回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 5 月 15 日（木） 15：30－17：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

亀岡内閣府大臣政務官、坂本内閣府審議官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、亀岡政務官から以下のような挨拶があった。

亀岡政務官：

- ・4 月 3 日の宇宙政策委員会で示された「平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針（経費の見積もり方針）」の骨格に基づき、各部会で審議いただいている。
- ・「戦略的予算配分方針」は、宇宙基本計画実現のための重要なツールである。
- ・宇宙政策委員会でもさらに議論を深めていただき、昨年同様骨太な「戦略的予算配分方針」をまとめていただきたい。

(1) 宇宙産業部会からの報告

宇宙産業部会の審議状況について、資料 1、資料 2 に基づいて中須賀部会長代理から報告を行った。主な意見は以下の通り。

○中長期の衛星整備計画をしっかりと作るべき。その際、企業の海外展開の後押しとなるようなものにすべき。

(2) 宇宙輸送システム部会からの報告

宇宙輸送システム部会の審議状況について、資料 3、資料 4 に基づいて山川部会長から報告を行った。

(3) 宇宙科学・探査部会からの報告

宇宙科学・探査部会の審議状況について、資料 5 及び資料 6 に基づいて山川委員から報告を行った。

(4) 平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針（経費の見積もり方針）

（案）について

平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針（案）について、参考資料に基づいた事務局からの説明の後、審議を行った。主な意見は以下の通り。

- 宇宙基本計画における4つのインフラ、即ち測位衛星、宇宙輸送システム、通信・放送衛星、リモートセンシング衛星は基本であり、着実に推進すべき。
- 特にリモートセンシング衛星は一番遅れており、これをしっかりと進めて行くことが必要。
- 情報収集衛星、Xバンド衛星、SSAなど、安全保障関係の事業をしっかりと進めるべき。
- OMDAにおいて、衛星は1つのツール。地上センサ等の活用や国際協力等により、効率的、効果的に推進すべき。
- 光データ中継衛星やXバンド衛星など、さまざまなプロジェクトがあがってきているが、これらを既存の予算額で進めて行くのには限界があり、宇宙関係の予算額の拡大を検討する必要がある。

(5) 宇宙に関する包括的日米対話 第2回会合について

宇宙に関する包括的日米対話第2回会合について、資料7に基づいて事務局より報告を行った。

以上